

編集後記

米食品医薬局（FDA）はアルツハイマー病新薬「アデュカヌマブ」を承認しました。アルツハイマー病の原因物質とされるタンパク質を除去し、認知機能の悪化を遅らせることを狙う初めての治療薬です。高齢化が進む中、認知症の治療に対する関心は高く、有効な治療法が出現することに期待が高まります。

「誌上ギャラリー」は尊田和徳先生より吹上浜海浜公園に隣接する正円池のホテイアオイです。湖面に反射する雲との幻想的なワンショットとなっています。

「論説と話題」は堂園光一郎先生より「第12回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会」です。専門医療と公衆衛生・保健行政の橋渡しとしてのプライマリ・ケアが求められます。

ご逝去されました海江田 健先生の追悼文を川畠平一郎先生、有馬 桂先生、東 洋一先生、相良有一先生、浅野庄三先生、鹿島 友義先生、伊東祐久先生、大園清信先生、猪鹿倉忠彦先生、上ノ町 仁先生、東 耕治様よりいただきました。通算9期18年という長きにわたり鹿児島市医師会の役員を務められたことに感謝申し上げますとともに心よりご冥福をお祈り申し上げます。

「学術」には長濱 潤先生より「赤血球数37万/ μL と著明な赤血球数低値があり紹介された続発性低力価寒冷凝集素症の5歳男児例」をご寄稿いただきました。赤血球数の著明な低値とHb値との乖離がある場合は、採血管の凝集の確認と湯煎による検査値改善の確認が診断の端緒となります。保存的療法で軽快する例が多く、マイコプラズマ感染症に続発したと考えられる本症例でも安静と保温のみで短期間で軽快しています。貴重な症例報告ありがとうございます。

栗 博志先生より「後頭・後頸部痛で発症する椎骨動脈解離の頭痛の性状に関して」をご寄稿いただきました。椎骨動脈解離（VAD）の頭痛は片頭痛様、緊張型頭痛様に加え後頭神経痛様頭痛、持続性、間欠性など多彩です。日常診療では初回発症の後

頭、後頸部痛、突然発症、激しい頭痛、増悪する頭痛などはその性状を問わず、VADも念頭に置き慎重に診察を行い、必要に応じて早期にMRI検査、脳血管撮影等を行うことが肝要とのことです。

「医師会病院だより」は栄養管理室の田中佐代子先生に栄養管理室の現状と取り組みについてご寄稿いただきました。昨年度から算定可能となった栄養情報提供書の作成によりシームレスな栄養管理が転院先の療養施設等で実施できる有効な手段となり得ると考えられます。

「切手が語る医学」には、古庄弘典先生から医学生・聖人・医学者・医師に関する切手をいただきました。いつもありがとうございます。

栗 博志先生より「歌と写真で綴る薩摩の脇道 - 歌三昧の史跡巡礼、その4-3 - 」をご寄稿いただきました。ご一読下さい。

武元良整先生より「練習中にふらつき・頭痛を訴える」として、行軍血色素尿症の3症例をご提示いただきました。ヘモグロビン値よりも先に低下し始めるフェリチンやビタミンB₁₂を測定することが早期の診断に有用です。

「リレー隨想」は榎田唯人先生です。宝塚への愛がいっぱい詰まっています。我が家でもまさに同じ光景が繰り広げられていて大いに共感致しました。鹿児島市出身の現役のタカラジェンヌ彩海せらさん、天飛華音さんのますますの活躍を期待しているのであります！コロナが収束した暁には宝塚大劇場へ足を運び生で観劇したいものです。

東京五輪まで1ヶ月をきりました。政府対策分科会の尾身会長ら専門家有志による「無観客が最もリスクが低く、望ましい」とする提言が出た中、観客を入れた開催が決まりました。7月から8月にかけて新型コロナウィルス再流行が懸念される中での開催には徹底的な感染対策が求められます。アスリートが輝ける記憶に残る大会となりますことを心より願っております。

（編集委員 今村 直人）